

② ピアサポしぶやでの家族支援について

- 家族会の開催。そこに外部講師を迎えることも一つのネットワークづくりであり、インターンやアルバイト、就労先の確保につながる。
- 家族とご本人の橋渡しの役割はすすんで担うが、家族療法的アプローチは行わない。それは専門家の役割であり、ピアサポーターの範疇を超える。

各論4 「アウトリーチ」

- ① アウトリーチの考え方について
- ② 文科省による、家庭支援
(その一つにアウトリーチ)の考え方

① アウトリーチの考え方について 1

- 国や東京都とは別に、ピアサポしぶやでは独自の考え方・特色を持って行っている。
- 場所(家庭)に訪問するのではなく、困難状態に手を伸ばす。
- ピアサポート型アウトリーチ = 非専門家、仲間同士の支え合い。
- 専門家でないからこそその条件(人間関係や友人づくりのためのアウトリーチ、居場所への誘導のためのアウトリーチ)。

① アウトリーチの考え方について 2

- 非専門家によるピアサポート型であるゆえの限界を知る。強度のひきこもりや精神障害が疑われるケースの場合、専門家へのつなぎ。
- アウトリーチを行う3条件(家族了解・本人承諾・公共公認性)により信頼を担保する。

② 文科省による、家庭支援 (アウトリーチ)の考え方 1

- 本年6月「教育振興基本計画」
第2期計画において
「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」
「豊かなつながりの中での
家庭教育支援の充実」
- 多様な主体の参画による家庭教育支援。その手段の一つにアウトリーチ。
- コミュニティの協働・つながりで実践をめざす。地域による家庭支援。

② 文科省による、家庭支援 (アウトリーチ)の考え方 2

- 地域の支援者による協働を。無縁・孤立を防止するために、「地域性」を子ども・家庭福祉や家庭教育の取り組みに導入。
- ユニバーサル支援(すべての人が受けるもの。学校教育、母子保健など)とターゲット支援(課題を抱える人が受けるもの。カウンセリングやソーシャルワークなど)。この両者が連続する仕組みを。
- 家庭教育支援の入り口は子ども支援。不安・生きづらさを抱えた子供の背景に、子育てについて不安・悩みを抱えている保護者・家庭がある。

まとめ① 「地域づくり」

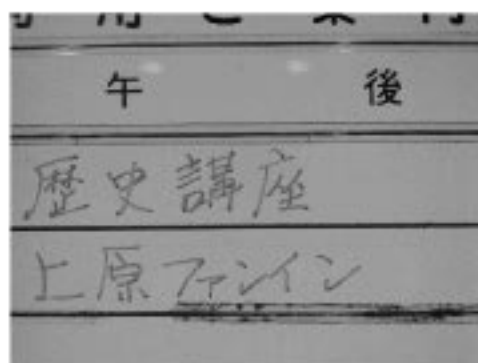
- 地域の困難を抱える若者や家庭へのつながりづくりの一つとしてのアウトリーチ

まとめ② 地域連携・ネットワーク

- 専門家および非専門家(ピアサポーターや地域の人材)がネットワークを構築して連携し、子ども若者を育て、支援する。
- その活動の一環としてアウトリーチ。

まとめ③ 「コーディネート」

- 地域ネットワークを構築し、連携して支援を継続するためのコーディネーターの必要と重要性。



まとめ④ 「アウトリーチ」

- アウトリーチ支援＝家庭訪問ではなく、困難を抱える状態に手を伸ばし、手を組んでいくことがアウトリーチ。
- アウトリーチの「場」にこだわらない。「場」は自由に設定し、その「場」を広げ、本人を新しい「場」に次々とつなげていく。
- アウトリーチから、本人の居場所・活動の場、社会性の広がり...、という流れと体制を、地域ネットワークで構築していく。